

コラム

発行日 2020.4.2
編集・発行 金浦区自治会

栽培冥利

我が家には3～4ヶ所に畑がある。昔は農業で生計を立てていたが、売却などして減らし現在の実耕作面積は1反5畝（15アール＝1500㎡）程度である。農作業に勤しんだ母も今は亡く、退職後の私は畑の草抑え程度に気まぐれに野菜を栽培しだした。隣が種を撒けばそれに倣い、トラクターの操作も教わった。「草を育てとらんか」と古老が叫べば慌てて除草作業を行ったりもした。聞けば誰彼と無く教えてもらえる有難い環境があった。

野菜を栽培することがだんだん面白くなり、子育て同様に愛情を持って育てるようになっていった。いつも失敗することは、種を買って全て蒔ききってしまう。成長して間引く時期に思い切って除去できないことである。苗は、もしもの生育不良に備えて余分にたくさん植えてしまうといった具合である。

今では大分要領が分かってきたと思われるが、畑が広いことも手伝って作り過ぎが悩みの種である。

しかし、解決策が見つかったのである。それは「栽培していない人に届けること」である。昨年の例から言うとだいたい20軒くらいに食べてもらった勘定である。夏野菜では、きゅうり・ナス・オクラ・満願寺・ピーマン・まくわ・トマトなど。秋・冬野菜だと、大根・白菜・黒豆・春菊・キャベツ・小松菜・チンゲンサイ・サツマイモなどである。他にも椎茸やゆず。かぼちゃは自家製の種で300個以上収穫できたので、こども園に連絡して取りに来てもらった。同園には大根なども2～3回に亘って食べてもらった。うれしい反響もたくさん戴いた。①夜久野高原の黒土で栽培した「大根・サツマイモ」は甘くてとても美味しい。大根は生でワサビ醤油で食べると美味しいと教えてもらう。②黒豆になる前の枝豆はぷちぷちして美味しい。また、不定期だが高齢者のご夫婦に野菜を届けて安否確認をしたり、届けた方との親近感が増している。「野菜を慈み育てる楽しみを持ち、新鮮野菜でヘルシーになり、届けて喜んでもらう」これまさに、栽培冥利に尽きる。



種から撒いて苗作り



右半分は昨年から隣保の高齢者に借りている

